

平成 27 年度 第 4 回甲斐市都市計画審議会の記録

1. 都市計画審議会の概要

日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）午後 3 時 00 分～4 時 00 分

会場：竜王北部公民館 3 階 視聴覚教室

□次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 案件
社会資本整備総合交付金（竜王中心拠点地区）の事後評価について
4. その他
5. 閉会

□配布資料

1. 次第、委員名簿
2. まちづくり交付金評価委員会について
3. 都市再生整備計画事後評価シート（原案）

□出席者（○は出席） * 敬称略

1号委員

- | | |
|--------|--------|
| ○都市計画 | 山口 雅典 |
| ○都市・交通 | 雨宮 正英 |
| ○環境：景観 | 大山 勲 |
| ・農業 | 大沢 博光 |
| ○衛生・環境 | 上條 幹人 |
| ○商工・経済 | 中村 己喜雄 |
| ○建築・土木 | 野口 賢司 |

2号委員

- | | |
|------|-------|
| ○市議会 | 赤澤 厚 |
| ○市議会 | 池神 哲子 |
| ・市議会 | 長谷部 集 |

3号委員

- | | |
|-----|--------|
| ○行政 | 鈴木 洋一 |
| ○市民 | 間瀬 孝一 |
| ○市民 | 田中 陽子 |
| ○市民 | 赤澤 政子 |
| ・市民 | 長坂 美津子 |

◆事務局

- | | | |
|--------|----------|-------|
| ○建設産業部 | 部長 | 飯室 崇 |
| ○都市計画課 | 都市計画課長 | 輿石 春樹 |
| ○都市計画課 | まちづくり推進係 | 箭本 太 |
| ○都市計画課 | まちづくり推進係 | 志田さか江 |
| ○都市計画課 | まちづくり推進係 | 小林 智哉 |
| ○都市計画課 | まちづくり推進係 | 岡田 伸哉 |

◆コンサルタント

- | | |
|---------|------|
| ○㈱ブレインズ | 堀内 洋 |
|---------|------|

2. 発言要旨

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 案件

○社会資本整備総合交付金（竜王中心拠点地区）の事後評価について（説明：事務局）

- まちづくり交付金評価委員会について説明を行った。
- 社会資本整備総合交付金（竜王中心拠点地区）の事後評価について説明を行った。

（委員）

- ・甲斐市において「中心拠点地区」、「中心市街地」の概念はどのようなものなのか。また、実際にどのあたりを指しているのか。基準のようなものはあるのか。
- ・もう一点、説明の中で「コンパクトなまちづくり」ということが何回も出てきたが、これについて、どういう位置づけがされているのか。市の方針や対象地区はどこなのかといった概念は既に存在するのか。

（事務局）

- ・まず、「中心拠点地区」や「中心市街地」をどういう基準で定めているのかについては、資料の2ページに地図があるが、都市再生整備計画をつくるにあたり、赤枠で括った範囲を中心拠点地区と定めさせて頂いた。
- ・補助金の交付要件があり、鉄道駅から半径1km以内、一番多い時間帯で片側3本以上通るバスの停留所から半径500m以内、国勢調査に基づき定められている人口集中地区という人口密度の高い地区、そういった全ての条件を兼ね備えている場所を「中心拠点地区」と定め、赤線で囲ったエリアになる。
- ・次に「中心拠点」とは、市の都市計画マスタープランには竜王駅周辺を市の拠点・中心とすることが明記されている。また、塩崎駅周辺、ラザウオークの周辺を商業の拠点と位置付けている。
- ・国ではコンパクトシティという政策を進めており、立地適正化計画という制度を創設している。立地適正化計画は、市の拠点を都市計画マスタープランより、より明確にする計画になる。
- ・市では、その立地適正化計画の策定を検討しているところで、具体的なアクションプランとなる計画は、まだできていない。
- ・概ね竜王駅周辺、塩崎駅周辺・ラザウオーク周辺の2つを市の拠点としていきたいと、考えている。

（委員）

- ・7ページの数値目標の達成状況について、指標1の保育園の園児数は目標値が230人に対して事後評価では292人で62人増えているが、保育園の規模は当初の計画と変わっていない。62人増えた理由は何か。
- ・4ページの事業の実施状況の表を見ると、一番上の市道新町本線は当初計画が160m、それが最終では30mになっている。その次の市道篠原田福線は100mが300m、その次の市道新町本線は80mが305mに変わっている理由は何か。

（事務局）

- ・保育園の園児数については、保育園の整備面積は800㎡で計画と実施で変わりがないが、実施設計を行った結果、園児を保育するスペースが拡大し、受け入れ可能な園児数が当初考えていた230人より増えた。

- ・ 4 ページに「目標を定量化する指標「保育園の園児数」に影響があるが、目標値は据え置いた」と記載しているが、国・県と相談し、目標値はそのまま据え置いたかたちになっている。
- ・ 道路整備事業については、市道新町本線は当初は 160m ということで、かなり北の方まで拡幅を予定していたが、事業を進める中で、右折レーンの部分だけを拡幅するかたちになり、事業が縮小した。
- ・ 2 つ目の市道篠原田福線に関しては、当初補助対象にできる見込みが 100m の区間だけであったが、国・県に補助要件等を確認する中で、事業に取り込める区間が増えたため、100m から 300m に事業区間が増えた。
- ・ 3 つ目の市道新町本線も、市道篠原田福線と同じような理由で、補助に取り込むことができる範囲が増えた。

(委員)

- ・ 保育園は、実施設計を行い建物の大きさが変わったということか。

(事務局)

- ・ 建物の大きさ自体は変更がない。
- ・ 保育に使える面積が変更になり、受け入れ可能園児数が増えた。

(委員)

- ・ 施設の内容が変更したことによる影響はないということでもいいのか。

(事務局)

- ・ この計画を策定した時点では、施設の詳細な設計は行っていないため、当初は保育のできるスペースを少なめに算出していたと考えられる。
- ・ 実施設計を行ったところ、保育に使えるスペースを増やすことができ、このような受け入れ可能人数になったと聞いている。

(委員)

- ・ 今回の事業で縮小になり、歩道が設置できなかった部分については、今後どうしていくのか。

(事務局)

- ・ 事業を実施していくのは建設課になるが、市内全域の歩道の整備状況や道路の整備状況を勘案し、事業を進めていくことになる。
- ・ 今回行った事業を活かしていく方向で検討していきたい。

(委員)

- ・ 出来なかった部分はよく検証をして、次に繋げていって頂きたいと思う。

(委員)

- ・ 17 ページの「事後評価手続き等にかかる審議」の成果の評価は、「指標の評価は適切であると判断できる。」ということで問題ないと思う。
- ・ しかし、「ただし、」という文章が続いていると、なにか問題があるのかと捉えられるかもしれない。
- ・ 事務局としては、どのような内容を考え、この文章を加えているのか。

(事務局)

- ・ 「ただし、」以降の部分については、目に見える数値だけではなく、施設の活用方法など、色々な視点から事業の成果を分析し、今後の都市再生整備計画等に活かしていく必要があるということで、書いている。

(委員)

- ・ 将来的にはこの評価を変えていくということか。

(事務局)

- ・ 評価は、今回で確定ということになる。

- ・次の計画時には、保育園などは園児数が増えたということだけではなく、整備したことによる他の効果について検証をし、計画に反映していくということである。

(委員)

- ・利用する側の立場からは、人数だけが増えても、実際にどうなのかという部分が非常に不安である。
- ・さまざまな視点から事業の成果を分析するということは重要だと思うので、しっかりと分析をしてもらいたい。
- ・どのようにやっていくのか、今後どうなっていくのか非常に期待している。

(事務局)

- ・子育て支援課からは、保護者に方々に、施設が新しくなったことや保育の内容について、満足度的なアンケートを行いたいという話を聞いている。
- ・アンケート結果を、施設の運営や、20年・30年後かもしれないが、保育園の再編等の際に、新たな計画に盛り込めたらと考えている。

(委員)

- ・今後のまちづくりについて審議の中に、「竜王駅前の活気あふれるまちづくりに向けて、商業の振興に取り組んでいく必要がある」とあるが、もう少し詳しい内容を教えてもらいたい。

(事務局)

- ・今後、国へ補助金を申請するには、市町村で立地適正化計画をつくっていかねばならない状況になる。
- ・市としても、平成28年度に立地適正化計画の策定に向けた方針的なものを検討し、早ければ平成29年度から計画策定に取り組んでいきたい。
- ・竜王駅北口、南口を含めて、立地適正化計画の中で具体的に商業をはじめ、病院等の集約を図り、コンパクトシティの計画を進めていきたいと考えている。
- ・具体的な計画は、今のところ無い。

(委員)

- ・竜王駅周辺では、商業施設の誘致、イベントの開催、市民が集まる催しなどを行っている。
- ・催しをする際に、設計事務所にお話をすると、いろいろな制限があり、こちら側でいろいろ試行錯誤しながら提案しても、意見が認められていない現状である。
- ・竜王駅について、設計事務所と積極的に意見を交換し、設計事務所どんな意見・思いがあるのか、確認していただく中で、我々も協力させて頂くということが必要ではないかと思う。

(事務局)

- ・今後、竜王駅を中心拠点としてコンパクトシティを考えていくときは、設計事務所と色々協議をする中で進めていきたい。

(委員)

- ・竜王駅で降りて美術館の方に行く人が、荷物をロッカーに入れたくて、駅員にロッカーがあるか尋ねると「ありません」という話になる。
- ・設計事務所の関係で、ロッカーが置けないということだが、そうなのか。

(事務局)

- ・南北自由通路については、市建設課の管轄で管理をしている。駅の改札から先はJRで管理している。
- ・意見を頂いた内容について確認をし、JRや設計事務所と協議したいと思う。

(委員)

- ・本来は、どういうコンパクトシティにしていくのかということ、市民の皆さんに

お示しして、それに向けて「コンパクトシティの実現に向けて」と書くのであればわかる。

- ・立地適正化計画もまだ出来ておらず、具体的なことはまだ考えていないという段階で、「コンパクトシティの実現に向けて」というと、場合によっては、周辺の住民中には、恣意的に竜王駅周辺だけに整備を集中させるのではないかという懸念を持つ方もいるのではないか。
- ・「コンパクトシティの実現に向けて」は、市の総合計画などの中でお示しするのが順序ではないか。

(事務局)

- ・「コンパクトシティの実現に向けて」は、立地適正化計画をつくるように国から指導がきている。
- ・甲斐市第1次総合計画の中でも、駅前周辺の関係でコンパクトシティについて記述がある。
- ・市としても、具体的な計画の策定に向けて動き出している。

(委員)

- ・私は交通関係に関わっており、コンパクトシティを実現するために公共交通が果たす役割といったことを、他市の市長に聞きにいたりして、概念的には多少わかっている。
- ・極端な話をすれば、周辺部の開発は少し順序を遅らせても、都市部の利便性を集中的に高めるといった政策も含まれてくるので、順序付けや何をつくるかということについて、コンパクトシティの議論を議会などでして頂く中で、まとめてあげていくのがいいと思う。
- ・市民の一人としてはそうあって欲しい。

(事務局)

- ・立地適正化計画については、今後検討委員会等を立ち上げ、市長の考え方、市民の意見、都市計画審議会委員の意見、色々な意見を取り入れた中で、具体的な計画の策定に取り組んでいきたい。

(会長)

- ・18ページの有識者の意見聴取の内容についてお願いします。

(事務局)

- ・事前に有識者にご確認を頂いた。

(委員・有識者)

- ・まず「手続きは適正である」ということが書いてある。
- ・その他に、保育園の園児数は増えたが、もう少し中身の運営を活性化するという内容であるが、道路は区画線を引いたり歩道を確保するために赤白ポールを設置したという内容であるが、道路の整備を契機として、住民の皆さんに沿道景観を考えてもらったり、交通安全について考えてもらうような話し合いの場をぜひつくってほしいということ。
- ・景観については、保育園はもともとこういう色だったのか。

(事務局)

- ・保育園については、景観計画ができる前に着手していたため、整備の段階でこの色になっている。

(委員)

- ・景観計画は策定されているので、保育園や市道新町本線の赤白ポールも、もう少し配慮した色にするといったことが必要である。
- ・篠原田福線について、水路はなかなか難しいが、今、歩道のために水路も埋めたり

しているので、見せ方の工夫といったことも検討できればいい。

- ・今後、景観にも少し配慮をしてもらいたいということで「景観や快適性」と入れた。

(会長)

- ・ご意見が無いようであれば、審議会としてはこの内容でよいか。

- 異議無く承認された。

4. その他

(事務局)

- 次回の予定について

5. 閉会

(以上)